

第 61 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2020. 2. 27 味田村 俊次

『ミネブロ錠 1. 25mg／2. 5mg／5mg』

第一三共株式会社 沖 幸裕 さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者： 熊山 ともみ、木村 亜希子、鈴木 里菜、石田 麻莉子、清田 好美、
隅山 穂子、鈴木 亜湖、一杉 有妃、味田村 俊次

【効能・効果】

高血圧症

【用法・用量】

通常、成人にはエサキセレンオンとして 2. 5mg を 1 日 1 回経口投与する。なお、効果不十分な場合は、5mg まで増量することができる。

【禁忌】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 高カリウム血症の患者もしくは本剤投与開始時に血清カリウム値が 5. 0mEq/L を超えている患者[高カリウム血症を増悪させるおそれがある。]
3. 重度の腎機能障害 (eGFR 30mL/min/1. 73m² 未満) のある患者[高カリウム血症を誘発させるおそれがある。臨床試験における投与経験はない。]
4. カリウム保持性利尿剤(スピロラクトン、トリアムテレン、カンレノ酸カリウム)、アルドステロン拮抗剤(エプレレノン) 又はカリウム製剤(塩化カリウム、グルコン酸カリウム、アスパラギン酸カリウム、ヨウ化カリウム、酢酸カリウム) を投与中の患者

【副作用】

国内第 III 相臨床試験において、総症例 1, 250 例中 162 例(13. 0%)に副作用(臨床検査値異常を含む)が認められた。主な副作用は、血清カリウム値上昇 51 例(4. 1%)、血中尿酸増加 17 例(1. 4%)、高尿酸血症 13 例(1. 0%)等であった。[承認時]

【特徴】

本剤は非ステロイド型のミネラルコルチコイド受容体 (mineralocorticoid receptor : MR) ブロッカー (拮抗薬) であり、MR に選択的に結合し、MR の活性化を阻害する。

ステロイド骨格を有する薬剤では MR 受容体への選択性が低く、性ホルモン受容体等にも作用してしまうため、性ホルモン関連の有害事象が懸念されるが、ミネプロは非ステロイド系で MR 受容体への選択性が高いため、性ホルモン関連有害事象に関する懸念は認められていない。

【考察】

MR 拮抗薬は治療抵抗性高血圧症をはじめ、低レニン性高血圧症、心筋梗塞後や心不全を合併している高血圧症、二次性高血圧である原発性アルドステロン症に対しての使用が推奨されている。さらに、近年 MR が関与する高血圧の病態が解明されつつあり、MR の活性化により高血圧を発症している患者に対しては、早期から MR 拮抗薬を投与することにより治療効果が期待できると考えられている。

しかし、既存の MR 拮抗薬については性ホルモン関連の有害事象で使用できないケースが存在した。今回ミネプロが発売されたことで、今まで使用できなかった患者のでも MR 拮抗薬を使用でき、適切な治療を受ける選択肢が広がると考えられる。

【質疑応答】

Q1. K の値はどのくらい上がるのか？

A1. 大体 0.3 くらいはほとんどの症例で上がってくる。

Q2. セララと比べて高カリウム血症の頻度はどうか？

A2. 直接比較を行っていないためなんとも言えない。

Q3. 高血圧ではどの場面で使用するのか？

A3. 本態性高血圧ではガイドラインにのっとり、第一選択ではなく推奨される場合での併用が多いのではないかと。また原発性アルドステロン症による高血圧などでは第一選択として使用するケースも有る。